

【資料 1】 つづき

- ・町保育園に入園を見据え、併設保育園から同じ食事同じ食器を提供
- ・食育
- ・運動遊び
- ・心理と OT は個別以外に小グループ(3～6 人)活動を実施している。
- ・自立課題、1 対 1 課題の支援を実施
- ・季節行事(お月見会など)
- ・放課後[下校後→送迎にて来所→着替え→ワーク→おやつ→遊び→帰りの会]
- ・土曜日・長期休暇[送迎(8:00-9:00)→朝の会→主活(集団療育)→昼食→遊び→おやつ→着替え→帰りの会→送迎(16:00-18:30)]
- ・体験行事
- ・夏祭り
- ・クリスマス会
- ・親子遠足
- ・親子遊び
- ・自発的行動と適切なコミュニケーションの為の構造化支援
- ・畑育
- ・創作活動
- ・課外活動
- ・農業体験(さつま芋、じゃがいも、人参 etc の野菜を植え、草とり、収穫まで)
- ・地域交流(地域行事参加、地域との共催行事、地域ボラの方の案内でハイキング、食事会など)
- ・バス遠足
- ・乗り物体験
- ・英語で遊ぼう
- ・季節行事
- ・野外散策
- ・ボーリング
- ・パン作り
- ・子どもヨーガ
- ・誕生会
- ・川遊び
- ・デイキャンプ
- ・正しい要求の出し方、選択する能力を身につけるための関わり

【資料 1】 つづき

- ・親子プール活動：週に 1 回、親子でプールに入り、スイミングコーチの指導を受けている。泳げるようになることが目的ではなく、陸上では経験できないきを楽しみ、生活経験の幅を広げることを目的としている。
- ・不定期開催で通常の療育外に体操教室を行っています
- ・視覚的な手がかり（色や絵など）を使いながら、幼児体操の指導員を招いて行なっています
- ・料理活動
- ・制作
- ・行事（クリスマス会など）
- ・モンテッソーリ発達支援
- ・小集団(2～3 人)でのお集まりの時間を設けています(朝のあいさつ、手遊び、視覚あそび、シートブランコ、くすぐり、マッサージ、順番やルール等)(未就学時対象)
- ・療育内行事 普段の療育内容とは異なる活動(料理など)を年 2 回程度行っています
- ・サーキットトレーニングをグループ別にプログラムを変えて毎日行っている
- ・母子通園のため親子で行う事が多いが、それぞれ 1/M(音楽療法、オイルマッサージ、親子運動遊び、アクアヘルス(プール)→2/M の時もあり)
- ・親子遠足
- ・修了児を送る「おめでとう会」
- ・季節の行事、作成、遠足、農業
- ・集団遊び(視覚と運動を育てる課題、ゲーム、ルールのある遊び、創作、工作、絵本の読み聞かせ、運動)

【資料 2】 療育方法 その他の親支援 ＊自由記述の回答内容をそのまま引用

- ・発達障害に関する連続した講座(計 6 日)
- ・毎月の懇談会
- ・個別懇談(年 3 回)
- ・体験保育
- ・父親参観(2/年)
- ・不定期な保護者相談(園長対応)
- ・講演会(発達障がいに関する)の実施
- ・家族会活動...就園前、年長児、小 6 対象(次のステップへの取り組み)学習会、家族同士の交流会
- ・施設見学
- ・音楽療法をもとにした親子コンサート
- ・勉強会(講演会など)
- ・母親学習会の開催(療育スタッフ、外部講師)
- ・保護者研修(生活リズム、絵本、医療、発達、就学、サポートファイル等)
- ・保護者座談会(クラス懇談、課題別グループ懇談、OB 保護者との懇談、縦割集団懇談等)
- ・父親学習会(行動の説明会 2 回/年、研修会年 2 回.家族懇談日に実施)
- ・プログラムとしては特に行っていないが、保護者研修会を年 3～4 回開催し、特性についての学習や家庭での過ごし方、福祉サービスについてなど、保護者同士でも情報の交換ができるような内容で行っている。
- ・発達にかかわる基礎研修 10/年
- ・公開研修(肢体不自由、コミュニケーション、発達、ことば等) 10/年以上
- ・地域別療育における保護者参加
- ・親の会とパパ会
- ・母親教室(年 2 回)
- ・家族レクリエーション(年 2 回)
- ・保護者懇談会(年 2 回)
- ・母子分離保育
- ・毎月親子参加週間を設け、発達や支援の共有をしている
- ・親子クッキング
- ・懇談会
- ・ふれあい遊び
- ・年 3 回の保護者会内で 1 時間の学習会を実施し、知識の提供、共有をはかっている
- ・父親参加の夏の遊び会

【資料 2】 つづき

- ・ 保護者研修
- ・ 学童、成人、保護者との合同交流会
- ・ 職員向け研修等を行っており、その研修に保護者にも呼びかける程度である
- ・ 親の会活動
- ・ 勉強会(就学、就園、福祉サービスについて)
- ・ 学校見学
- ・ 2～3 カ月に 1 度、保護者同士のお話し会を実施。その中で療育の意味、子どもの見方など具体的に一緒に勉強する。
- ・ 参観日
- ・ 茶話会
- ・ 親子行事(じゃが芋収穫祭とカレーパーティー)
- ・ 保護者会
- ・ 自閉症協会や他の機関で行なうセミナーへの参加呼びかけ
- ・ ペアレントプログラム(福島大学 子供のメンタルヘルス推進準備室と連携)
- ・ 就学説明会
- ・ ママランチ会(親子向けだと...遠足、夏祭りがあります)
- ・ 療育に関係することの学習会
- ・ クラス毎の懇談会
- ・ 家庭訪問
- ・ 親子登園(利用頻度の多少に関わらず 1 週間に 1 日は親も療育に参加する)
- ・ 併行通園している子については、併行先を訪問したり、併行先の職員に療育を参観してもらう。
- ・ 卒園(療育終了後)後の懇談会
- ・ 就学支援プログラム
- ・ 月 2 回保護者向け学習会(2 時間程度)
- ・ 不定期に保護者対象で療育時間内に DVD 観賞会(特性などについて)
- ・ 年 2～3 回他事業所見学会や茶話会や外部講師を招いての学習会
- ・ 親子通園
- ・ 勉強会(平日は母親向け・土曜は父親向け)
- ・ 試食会(給食)
- ・ 個別面談
- ・ 土曜参観(年 2 回)
- ・ 卒園児の保護者向けの集まりなど

【資料 2】 つづき

- ・親子通園(1/w 回は必ず親子で登園して子どもの特性の理解を促す)
 - 週 5 クラス(単独通園 4/w、親子通園 1/w)
 - 週 3 クラス(単独通園 2/w、親子通園 1/w)
 - 週 2 クラス(単独通園 1/w、親子通園 1/w)
 - 1/w クラス(全親子通園)
- ・親向け勉強会
- ・父親講座
- ・家族参観など
- ・親子通園(低年齢新入日は全日親子通園、4・5 才は単独通園と親子通園を取り入れながら保護者に子どもの理解を促す)
- ・保護者向け勉強会
- ・父親講座
- ・家族参観日
- ・療育講座
- ・保護者教室
- ・親同士がおしゃべりをする会(おしゃべりカフェ)1/M
- ・お母さん達の勉強会(毎回テーマや講師を変えて)1/M 言語聴覚士による「療育とは」、看護師による「夏の過ごし方」などなど
- ・親の会があり、親の会主催の集まりを年に数回催している(親の会は任意参加)
- ・昨年度は、就学学習会・社会見学/県立リハビリテーションセンター・講演会・サポートファイルについて・中高生父母の体験談・小学生親子の夏休みボーリング大会開催していた
- ・クリスマス会等

療育機関で行われている療育内容に関する調査

I. 貴機関についてお尋ねします。

1. 貴機関は、以下のいずれに該当するか、ご回答ください。

- ☐ 児童発達支援センター ☐ 児童発達支援事業所 ☐ 放課後等デイサービス事業所
☐ その他 ⇒以下に具体的にお書きください。

2. 貴機関の設置及び実施主体は、以下のいずれに該当するか、ご回答ください。

- ☐ 公設公営 ☐ 公設民営 ☐ 民設民営

II. 貴機関で提供している療育についてお尋ねします。

1. 療育に直接的にかかわる方の職種は以下のいずれに該当するか、あてはまるものすべてに✓をつけてください。

- ☐ 心理士 ☐ 保育士 ☐ 言語聴覚士 ☐ 作業療法士
☐ その他 ⇒以下に具体的にお書きください。

2. 療育に間接的に（プログラム作成やケース・カンファレンスなどに参加するなど）かかわる方の職種は以下のいずれに該当するか、あてはまるものすべてに✓をつけてください。

- ☐ 児童精神科医 ☐ 小児科医 ☐ 心理士 ☐ 保健師 ☐ 言語聴覚士
☐ 作業療法士 ☐ 保育士 ☐ その他 ⇒以下に具体的にお書きください。

3. 集団療育を実施していますか？

- ☐ はい ☐ いいえ

⇒「はい」の方は、以下についてお答えください。

3-A) 集団療育の頻度・時間数はどのくらいですか？貴機関で平均的な頻度・時間数についてお答えください。

(回答例：週に5日・10時～15時、週に2日・1日あたり2時間など)

3-B) 一グループの子ども的人数はおよそどのくらいですか？

(回答例：○人～○人)

4. 個別療育（大人と子どもが1対1で行う療育）を実施していますか？

☐ はい ☐ いいえ

⇒「はい」の方は、以下についてお答えください。

4-A) 個別療育の頻度・時間数はどのくらいですか？貴機関で平均的な頻度・時間数についてお答えください。

(回答例：週に2日・1日あたり2時間、2週に1日・1日あたり1時間など)

5. 子ども一人一人の療育内容をどのように決めていますか？あてはまるものすべてに✓をつけてください。

☐ 医学的診断 ☐ 療育場面での子どもの状態 ☐ 親の希望

☐ 療育開始前に実施された検査結果（知能検査・発達検査、親回答式尺度等）⇒検査名を具体的にお書きください。

☐ 貴機関で独自に設けられた基準（チェックリスト等）⇒どのようなものか具体的にお書きください。また、もしさしつかえなければ、一部いただけますと幸いです。

☐ その他 ⇒具体的にお書きください。

6. 以下のうち、どのような考え方や方法に基づいて療育を行っていますか？あてはまるものすべてに✓をつけてください。

☐ 行動的アプローチ（応用行動分析、行動療法など）

☐ 視覚的構造化

☐ 絵カードを用いたコミュニケーションシステム

☐ 発達・関係性アプローチ（対人関係発達指導法（RDI）、フロアタイム（DIR）など）

☐ 言語療法（言語聴覚士によるもの、あるいは言語聴覚士の作成したプログラムによるもの）

☐ 作業療法あるいは感覚統合（作業療法士によるもの、あるいは作業療法士の作成したプログラムによるもの）

☐ ソーシャルスキルトレーニング

☐ 音楽療法

☐ 動作法

☐ ペアレントトレーニング

調査票

☐ その他、貴機関独自に行っている子ども向けプログラムについて、具体的にお書きください。

☐ その他、貴機関独自に行っている親向けプログラムについて、具体的にお書きください。

7. 子ども一人一人の療育計画書を作成していますか？

☐ はい ☐ いいえ

⇒「はい」の方は、もしさしつかえなければ、計画の様式（サンプル）を一部いただけますと幸いです。

8. 貴機関に通っている子どもで、保育所・幼稚園を利用している（並行通園）の子どもはいますか？

☐ いる ☐ いない ☐ 小学生以上の子どものみを受け入れているため、いない

⇒「いる」の方は、以下についてお答えください。

8-A) 貴機関に通っている子どものおよそ何%くらいが並行通園をしていますか？

8-B) 並行通園の開始の時期は何歳頃が一番多いですか？

8-C) 並行通園をしている子どもの場合、貴機関で受ける療育の平均的な頻度・時間数はどのくらいですか？

8-D) 保育所・幼稚園に通所後の療育の頻度・時間数はどのようにして決定されますか？ 機関で基準が決まっている、親の希望に応じている、個別的に担当者が判断するなど、具体的にお書きください。

9. 子ども一人一人の療育内容の見直しを定期的に行っていますか？

☐ はい ☐ いいえ

⇒「はい」の場合、何か月ごとに行っているか、またその方法などについて、できるだけ具体的にお書きください。

10. 子ども一人一人の療育の成果を保護者に説明していますか？

☐ はい ☐ いいえ

⇒「はい」の場合、どのように説明しているか（希望があったときに説明する、定期的に説明する機会を設けている、検査結果を用いて説明している／していないなど）、できるだけ具体的にお書きください。

11. 子ども一人一人の療育の終了をどのように決めていますか？ 機関で基準や時期が決まっている、保護者と話し合って個別的に決めているなど、できるだけ具体的にお書きください。

これで、すべてのアンケートが終了しました。
回答し忘れないかどうか、もう一度お確かめください。

ご協力くださり誠にありがとうございました。
回答済の調査票を返送用封筒に入れて投函してください。

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

--

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
本田秀夫	精神科医から見た『いじめ』		学校運営			2015	6-9
本田秀夫	思春期・青年期の発達障害の人たちへの医療支援－特有の性格変化および併発する精神症状への対応－	萩原拓	発達障害のある子の自立に向けた支援－小・中学生の時期に、本当に必要な支援とは？	金子書房	東京	2015	108-112
本田秀夫	障害のある生徒およびその保護者の理解と対応	原田眞理	教育相談の理論と方法－中学校・高校編－	玉川大学出版部	東京	2015	121-148
本田秀夫	自閉スペクトラム症	水野雅文	外来で診る統合失調症	医学書院	東京	2015	73-81
		本田秀夫	自閉症スペクトラムがよくわかる本	講談社	東京	2015	
		星野あゆみ 著，本田秀夫監修	発達障害のわたしのこころの声	学研教育出版	東京	2015	
		本田秀夫	こころの科学 No.183, 特別企画 「子どものこだわり」	日本評論社	東京	2015	
本田秀夫	自閉スペクトラムにおける「こだわり」－経験則と生活の知恵	本田秀夫	こころの科学 No.183	日本評論社	東京	2015	38-43

清水康夫	閉症スペクトラム障害／アスペルガー障害の治療と支援		外来精神科診療シリーズ：発達障害 児童・思春期 てんかん 睡眠障害 認知症	中山書店		2015	
佐竹宏之		岡地区小児科医会乳幼児保健委員会編集	障害児の育児．乳幼児健診マニュアル第5版	医学書院		2015	59

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
本田秀夫	自閉スペクトラム症，早期療育・継続支援から見えてきたこと	臨床精神医学	44(1)	19-24	2015
本田秀夫	児童青年精神医学の今後 10 年の展望	精神科治療学	30(2)	259-264	2015
本田秀夫	認知行動療法が効いたのか？それとも，その治療者だから良かったのか？	精神療法	41(2)	216-217	2015
本田秀夫	成人期の自閉スペクトラム	児童青年精神医学とその近接領域	56(3)	322-328	2015
本田秀夫	自閉スペクトラム症の早期発見，早期療育からその後の支援をトータルに保障するコミュニティケア・システム：DISOCOVERY	Asp heart：広汎性発達障害の明日のために	14(2)	36-41	2015
岩佐光章，本田秀夫，清水康夫，今井美保，原郁子，大園啓子	自閉症の診断告知と保護者の反応ー幼児期における診断告知の個別性の高さと最適性についての検討ー	明治安田こころの健康財団研究助成論文集	50	113-122	2015
高橋脩	自閉症の医学的リハビリテーション	Jpn J Rehabil Med	52(10)	609-610	2015
高橋脩	豊田市こども発達センターにおける就学支援	LD 研究	24(4)	465-468	2015
内山登紀夫，川島慶子，鈴木さとみ	福島の乳幼児のメンタルヘルス	発達障害医学の進歩	27	1-8	2015
山下洋，錦井友美，吉田敬子	母子精神保健と世代間伝達	乳幼児医学・心理学研究	23(2)	85-101	2014
山下洋	「今の子どもの育ちと支援ー就学に向けてー」 就学までの子どもの育ちと家族の気づきー発達支援相談の経験からー	Jpn. J. Child Adolesc. Psychiatr.	56(1)	80-95	2015
山下洋	ビッグデータと臨床経験を結ぶ発達精神病理学	こころの科学	181	54-59	2015
山下洋，吉田敬子	ボウルビーの発達論からみた発達障害	そだちの科学	24	52-57	2015
石飛信，小坂浩隆，神尾陽	薬物療法と注意点「ASD」	発達障害 A to Z			印刷中

子					
石飛信,神尾陽子	自閉症スペクトラム障害	JMEDJ 治療法便覧 2016～私の治療～			印刷中
石飛信,丁ミンヨン,小坂浩隆	自閉スペクトラム症の原因はわかったの? ～脳画像研究の観点から～	チャイルドヘルス	19(5)		印刷中
高橋秀俊,石飛信,原口英之,野中俊介,浅野路子,小原由香,山口穂菜美,押山千秋,荻野和雄,望月由紀子,三宅篤子,神尾陽子	自閉症スペクトラム障害児における聴覚性驚愕反射の特性とエンドフェノタイプ候補可能性の検討	日本生物学的精神医学会誌	26(2)	103-108	2015
神尾陽子,荻野和雄,石飛信,高橋秀俊	発達障害の疫学	精神科	26(1)	33-37	2015
神尾陽子	自閉症の臨床から生まれた新たな行動評価アプローチ	細胞工学	34(5)	495-498	2015
Yuko Okamoto, Makoto Ishitobi, Yuji Wada, Hirotaka Kosaka	The Potential of Nasal Oxytocin Administration for Remediation of Autism Spectrum Disorders	CNS & Neurological Disorders-Drug Targets			In Press
Sumiyoshi ARAI, Yuko OKAMOTO, Toru FUJIOKA, Keisuke INOHARA, Makoto ISHITOBI, Yukiko MATSUMURA et al	Altered frontal pole development affects self-generated spatial working memory in ADHD Brain & Development				In Press
Stickley A, Koyanagi A, Ruchkin V, Kamio Y.	Attention-deficit/hyperactivity disorder and suicide ideation and attempts: findings from the Adult Psychiatric Morbidity Survey 2007.	Journal of Affective Disorders	189	321-328	2015
Takahashi H, Komatsu S, Nakahachi T, Ogino K, Kamio Y.	Relationship of the acoustic startle response and its modulation to emotional and behavioral problems in typical development children and those with autism spectrum disorders.	J Aut Dev Disord			2015
Kamio Y, Haraguchi	Brief Report: Best Discriminators for Identifying Children with Autism	J Aut Dev Disord	45(12)	4147-4153	2015

H, Stickley A, Ogino K, Ishitobi M, Takahashi H.	Spectrum Disorder at an 18-month Health Check-Up in Japan				
Matsuo J, Kamio Y, Takahashi H, Ota M, Teraishi T, Hori H, Nagashima A, Kinoshita Y, Ishida I, Hiraishi M, Takei R, Higuchi T, Motohashi N, Kunugi H.	Autistic-like traits in adult patients with mood disorders and schizophrenia.	PLOS One	10(4)		2015
Ryoko Okazaki, Tetsuya Takahashi, , Kanji Ueno, Koichi Takahashi, Makoto Ishitobi, Masato Higashima, Yuji Wada.	Changes in EEG complexity with electroconvulsive therapy in a patient with autism spectrum disorders: a multiscale entropy approach.	Frontiers in Human neuroscience	26		2015

厚生労働科学研究費補助金
(障害者対策総合研究事業(身体・知的等障害分野))
発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援の実施と評価
平成 27 年度 総括・分担研究報告書

発 行 日 平成 28 (2016) 年 3 月
発 行 者 「発達障害児とその家族に対する地域特性に応じた継続的な支援
の実施と評価」
研究代表者 本田 秀夫
発 行 所 信州大学医学部附属病院子どもこころ診療部
〒390-8621 長野県松本市旭 3-1-1
TEL : 0263-37-3060 FAX : 0263-37-3060
